

2022 年度教育研究活動報告用紙（様式9）

氏名	笠 修彰	職名	准教授	学位	修士（健康福祉学）
----	------	----	-----	----	-----------

研究分野	研究内容のキーワード
社会福祉学	障害者福祉 地域福祉 ソーシャルワーク

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究 ・子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究 ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

担当授業科目
西南女学院大学短期大学部 保育科 <ul style="list-style-type: none"> ・こども家庭福祉（前期） ・社会的養護Ⅰ（前期） ・子ども家庭支援論（前期） ・社会福祉（後期） ・社会的養護Ⅱ（後期） ・保育実習指導Ⅰ（通年） ・保育実習指導Ⅲ（通年） ・こども学基礎演習（通年） ・こども学特別演習（通年） ・施設実習Ⅰ（学外実習） ・施設実習Ⅱ（学外実習） 西南女学院大学 保健福祉学部 福祉学科 <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（前期） ・精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【こども家庭福祉、社会福祉、子ども家庭支援論】 専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、適宜補助プリントを作成し、配布。プリントは、授業内容の理解を補助するもの、授業内容の理解度が確認できるテスト形式のもの、要点をまとめたものなどを作成し、理解度の把握及び意欲の向上を目指した。
授業科目名【社会的養護Ⅰ】 授業では、社会的養護への意欲関心を高めるとともに、社会的養護の実践を具体的にイメージできるよう、適宜事例等を用いた授業展開を心掛けた。また、学生の学習状況を把握するため、適宜小テストを行い、授業理解度の低い学生については必要に応じて個別対応を行った。

授業科目名【 社会的養護Ⅱ 】 授業では、具体的な事例を用いた個人ワークを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主体的に学習できるよう支援した。
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会 日本保育学会	会員 会員	2008年7月 2016年9月

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 入門 保健医療と福祉	共	2023. 3 (発刊予定)	ミネルヴァ書房	①社会福祉士・精神保健福祉士養成課程における教科書として編まれたもので、政治・経済・社会および福祉先進国である北欧などの動向も見据えた上で、保健医療制度の持続可能性を高めるための手法と社会構造を掴むために求められる視点をわかりやすく解説している。 ②編著者 川村 匡由 ③担当部分 第6章 保健医療対策 1. 保健所の役割 2. 医療計画 (地域医療の指針) 3. 5 疾患 (がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患) 4. 5 事業 (救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療) 5. 薬剤耐性 (AMR) 対策を担当した。 総頁数 P250 ④A5版

2022年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学術論文)</p> <p>1. 保育者養成課程における援助観の縦断的調査</p>	共	2023. 3	西南女学院大学紀要VOL27	<p>①保育者養成教育や学外実習が援助観の育成にどのように影響しているかを検討した。短大保育科在学学生を対象に、2年間に4回の質問紙調査を実施し援助規範意識を測定した。その結果、入学時の援助規範意識の特性で2群に分けることができた。実習前後の援助規範意識について安定群と変化群が見出された。変化群は安定群に比べ、入学時の返済・自己犠牲・弱者救済規範意識は高く、交換規範意識は低かった。変化群は、の養成課程で専門職としての援助規範を学び、実習を経験することで、安定群の援助規範意識に近づく傾向が示された。</p> <p>②笠修彰・命婦恭子・阿南寿美子・篠木賢一・末寄雅美</p>
<p>2. 保育者の資質としての運動指導観と遊び環境への理解の変容 —2年間の養成課程の学びと実習を通して—</p>	共	2023. 3	西南女学院大学紀要VOL27	<p>①短期大学生が養成教育の中で運動指導観と遊び環境を理解する能力を身につけ変容させていく過程と各々の資質変容との相関および保育観形成との関連について明らかにし、資質形成を効果的に行う保育者養成カリキュラムについて考察を行った。その結果、運動指導観と遊び環境への理解には明確な相関は見られず、運動指導観は1年次には変化が無く2年次に低下すること、遊び環境への理解は入学時に理解が低い学生は進級時に理解が高まるということ、子ども中心保育観と関連して高められるという結果が得られた。</p> <p>②篠木賢一・末寄雅美・命婦恭子・阿南寿美子・笠修彰</p>

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	会員	2008年4月～現在に至る
一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会	理事	2009年6月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2015年4月～現在に至る
『保育福祉小六法』(株) みらい	編集委員	2016年4月～現在に至る
公益社団法人日本社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る
公益社団法人福岡県社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

学生募集委員会 副委員長 (進学ガイダンス5回, 高校訪問51校) 2022年4月1日～2023年3月31日
キャンパス・ハラスメント相談員 2022年4月1日～2023年3月31日